

- 1 NHKでは、平成12年12月より、放送の補完利用としてインターネットによるニュース配信を開始し、平成14年の5月からは携帯端末向けにもニュースの提供を始めたところである。インターネットを使った情報へのニーズは、年々高まってきており、NHKではインターネットを使った情報提供に積極的に取り組み、公平・公正、正確・迅速な報道として、着実に国民からの信頼を得ているものと考えている。

- 2 インターネットを使ったニュースの利便性は、情報をいつでも、どこでも見ることができる点にある。とりわけ、選挙や災害時においては、日本の民主主義の発展に寄与し、国民の生命財産を守るという公共放送の使命を達成するため、インターネットを使った選挙報道や災害時の緊急報道に全力で取り組み、きめ細かい情報を随時伝えている。

- 3 選挙報道では、1998年の参議院選挙から実験的に取り組み、その後の国政選挙はもとより、知事、政令指定市長選挙などの開票速報を実施してきたところである。また、身近な統一地方選挙についても開票速報や開票結果を伝え、去年4月の統一地方選挙では、初めて区市町村の議員選挙も対象に加えてすべての選挙を伝えたところである。
NHKのインターネットによる選挙速報へのいわゆるアクセス数は実施するごとに着実に増加しており、去年11月の衆議院選挙では、速報を始めた9日午後8時から翌日午後8時までの24時間で、1825万ページビューに達した。NHKのインターネットを使った個別情報へのアクセスとしては、過去最高となっている。

ページビュー：ユーザーがアクセスして閲覧したページ総数で、一般にアクセス数を示す単位。

「次頁あり」

- 4 災害時の緊急報道は、当初試行的に伝えたこともあるが、携帯端末向けにニュース発信を始めた平成14年の5月以降、台風、地震、大雪情報などについて、特設ページを開設して伝えているところである。刻々と変わる情報は、最新情報、被害情報、交通情報、地域情報ごとに区分けし、随時更新しながら、きめ細かく伝えている。

特設ページ開設の件数

平成14年 7回（台風のみ）

平成15年 9回（台風5回、大雨1回、地震3回）

平成16年 20回（大雪3回、イラク人質1回、台風12回、噴火1回
豪雨1回、地震2回）

このうち、平成15年8月の台風10号では、インターネットへのアクセス数は、お盆の帰省ラッシュのピークとなった9日の24時間で1341万ページビューを記録し、災害時の緊急報道としては、過去最高となった。その後、平成16年6月の台風6号では、6月21日に2375万ページビューとなり、記録を更新した。

- 5 NHKでは、選挙、災害時の報道に加えて、戦争やテロなどの危機管理情報についても積極的に伝えており、平成13年9月の同時多発テロをはじめ、アフガニスタン攻撃、イラク戦争でも特設ページを開設し、邦人の安否情報や関係各国の動きなどについて積極的に伝えている。
- 6 地上デジタル放送のスタートとともに、デジタル新時代に入ったといわれる。インターネットに象徴されるデジタルメディアは、今後もさらに進展し、インターネットを使った情報へのニーズはおのずと高まるものと思われる。NHKは、こうした社会のニーズに対応して、公共放送としての役割を果たしていきたいと考えている。